

梅の

唐

もる

霞結

ふとめ

初編

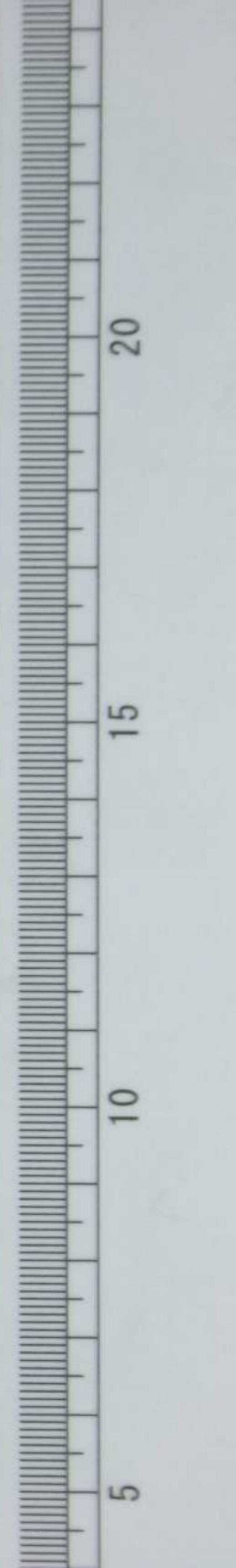
魯文化

國

山
詩
作
加
那
那
人

金松山

柳田文庫
文庫11
A 287



山亭有人撰

柳田泉文庫

唐詩作加那

全

東京都

金松堂梓

世文

天井を運きたる後、て、晦日に月を乞ふ人、故て不心後と
 貴さふ、有人、小南、能を、小婦、能を、舞、世さ、水、誰が、妬、眼、小
 倣、老、何、る、ま、一、開、化、日、り、進、之、好、子、月、に、播、者、一、陶、隱
 先生、生、た、生、り、世、が、新、折、四、日、家、居、を、後、け、茂、叔、先、確、現、存、在、の
 池、の、精、子、又、偶、居、を、予、一、小、さ、の、産、類、を、紙、に、描、女、あ、れ、の
 朝、顔、を、吟、む、る、頃、女、あ、り、世、に、連、対、之、後、の、ハ、輝、中、と、一、の、小
 利、を、得、さ、る、と、此、中、の、不、心、後、を、乞、一、國、有、南、能、の、紙、に、
 あ、る、ぬ、く、書、府、の、後、を、書、止、て、彫、摺、を、ん、ど、も、女、の、能、の、意、は、終、り、
 終、心、を、た、す、き、際、も、つ、ね、ね、看、官、藤、漏、を、と、め、め、の、心、を

明治三己年 卑月 稿集 山亭有人化

唐詩



西寺



西寺
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

西寺

可^トじがらへ

鉄強松よ

黄沙百戦

穿金甲

不破樓蘭

終不還

とんちん中でも

押してゆく



可^トろのぬきごと

笑つていそぐ

願作輕羅

著細腰

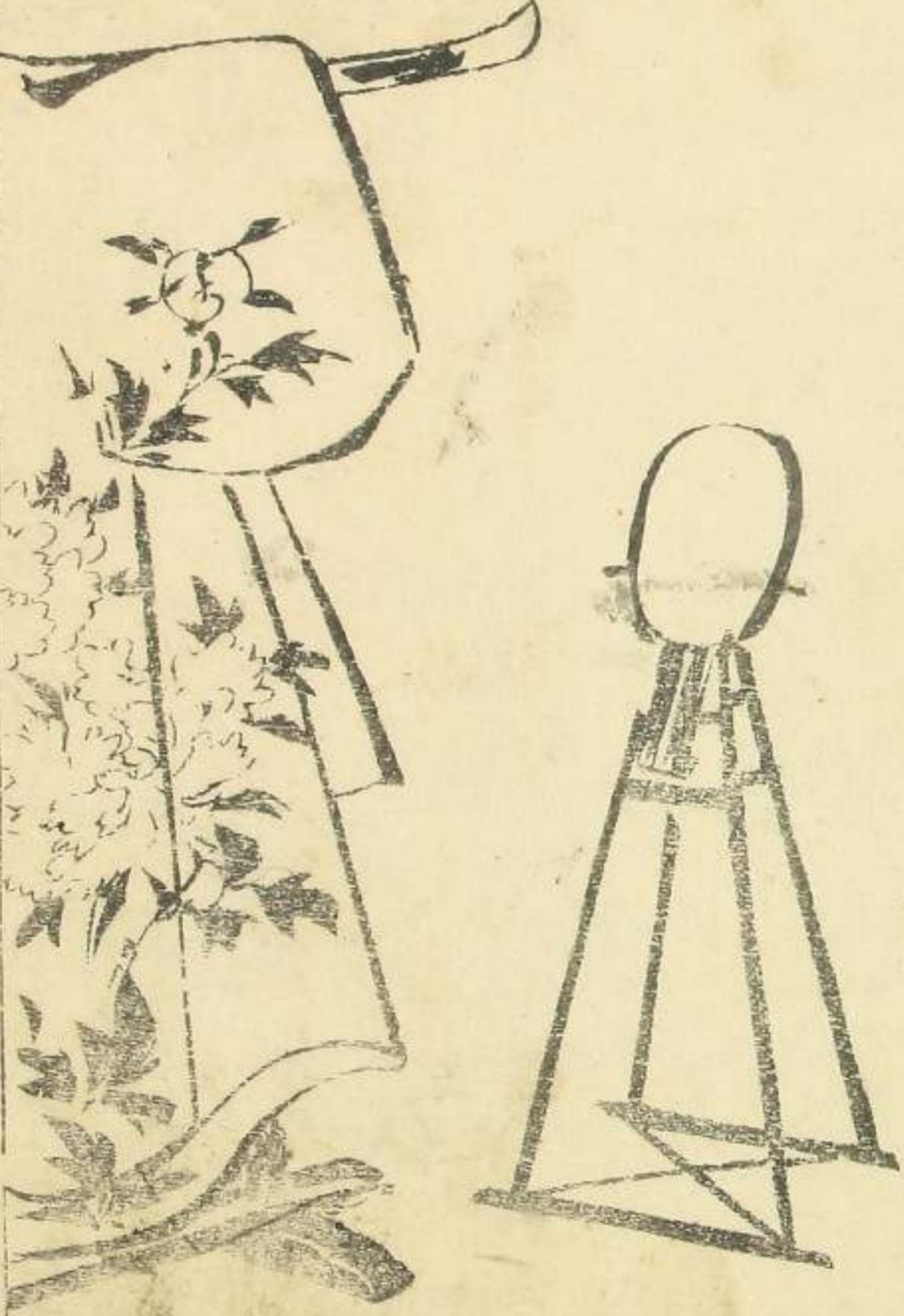
願為明鏡

分嬌面

徳^トの命

燈いも

おあどろ



鐘ハ七ツウ

ハツ山下セ

月落鳥啼

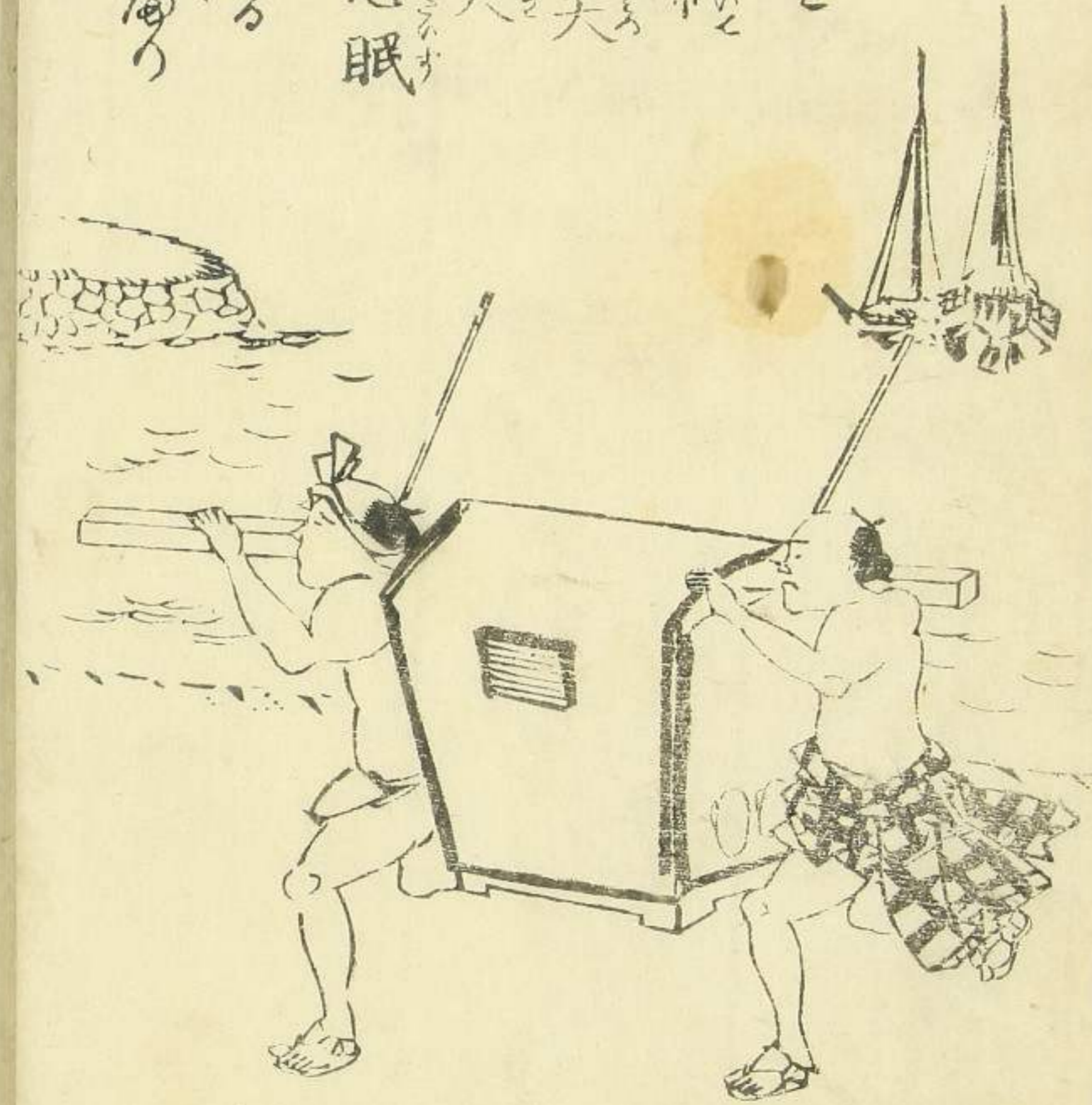
霜满天

江楓漁火

對愁眠

夕暮

早海



夕暮

眉作

却嫌脂粉

汚顔色

淡掃蛾眉

朝至尊

夕暮

落化



トニ
あのか人の
軍のそ途

故人行役
向邊州
匹馬今朝
不少留

トニ
ゆうれい
送別れ



トニ
あのか人の
一年始有一年春
百歳曾無百歳人

トニ
あのか人の
一年始有一年春
百歳曾無百歳人



唐詩

ト一
死ぬりど悔さる

他日夢西や

眼者春色

如流水

今日残花

昨日開

ト一
あそび見ろ

人づ来る



ト一
のりも乃中を

あそび見ろ

誰知孤宦

天涯意

微雨蕭々

古驛中

ト一
みづが流と

かもし見世



唐詩

トニ
可の身ぬ疾ハ

白粉つゆ灰

一長姑蘇

不復返

岸傍桃李

為誰春

トニ
恙ののささ

泣森の

トニ
ふりぬとのふるお

女房の出来ん

秋葉風吹

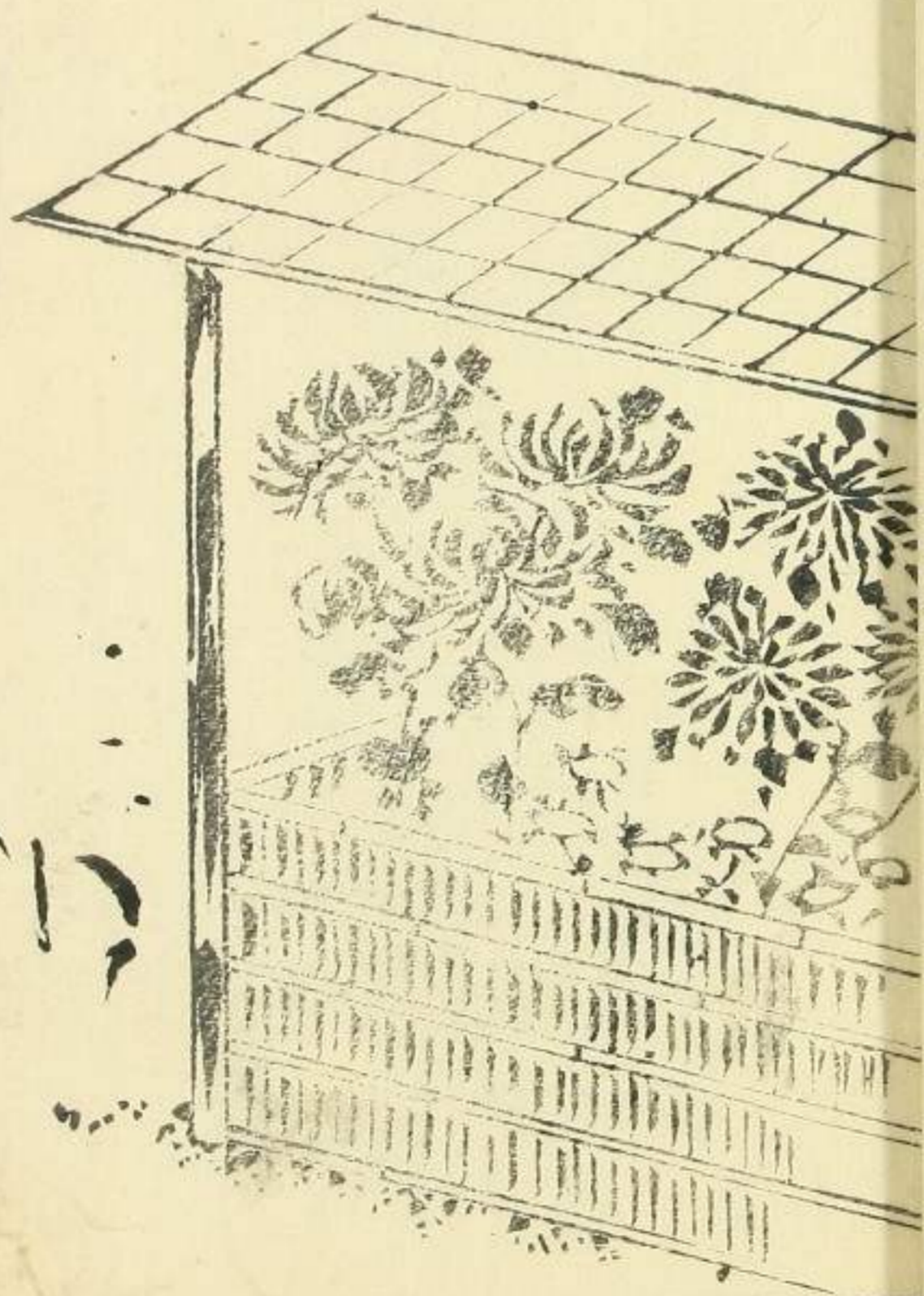
黄颯々

晴雲日照

白鱗々

トニ
いつろ十日の

菊とる



一ト二
惜むね名な跡あと亦も

兄あに海うみ柳やなぎ

柳やなぎ色いろ參ま差さ

掩おほ畫え樓たか

曉あけ鶯うす啼な送はな

滿み宮みや愁し

一ト二
夕ゆふ引ひる

色いろろろ發は



一ト二
きざるきざること

ののれれささゆゆのの

高たか歌うた一いつ曲きょく

明あ鏡かみ掩おほ

昨きのう日ひ少せう年ねん

今いま白はく頭かぶ

一ト二
松まつののろろのの

方かた丈ぢやう磯いそ



一層言

トニ
「おのち初念ふ

あつかりぬれ

君問歸期

未有期

巴山夜雨

漲秋池

トニ
「丁友やまの

あひが

ト
西の東の

代人の中心

莫愁前路

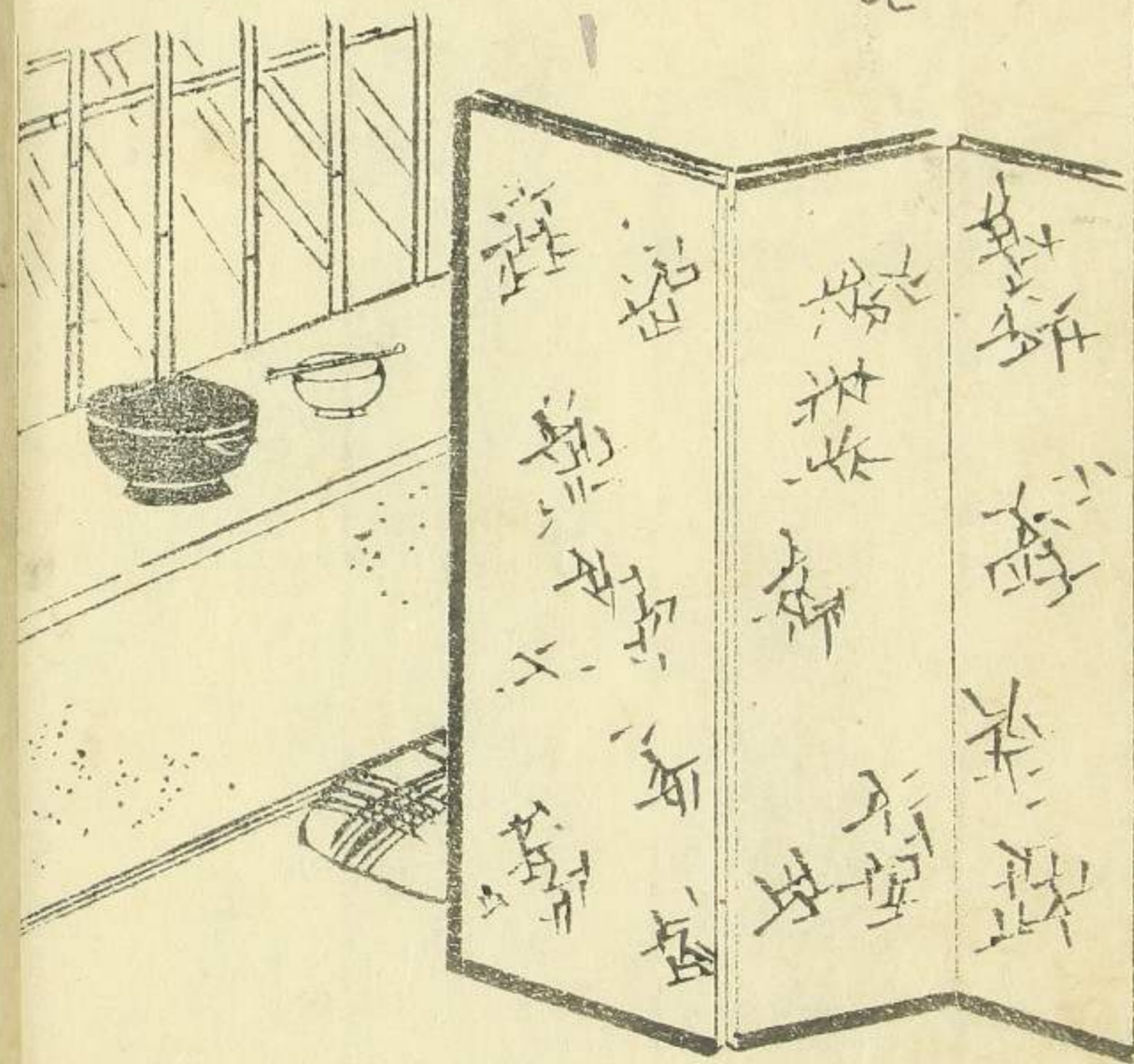
無知己

天下誰人

不識君

トニ
「正実ありまの

あひら



一層言

竹生歌日暮

能留客

醉殺長安

輕薄兒

唯
有
相
思

似
春
色

江南江北

送君歸

唯
有
相
思

似
春
色

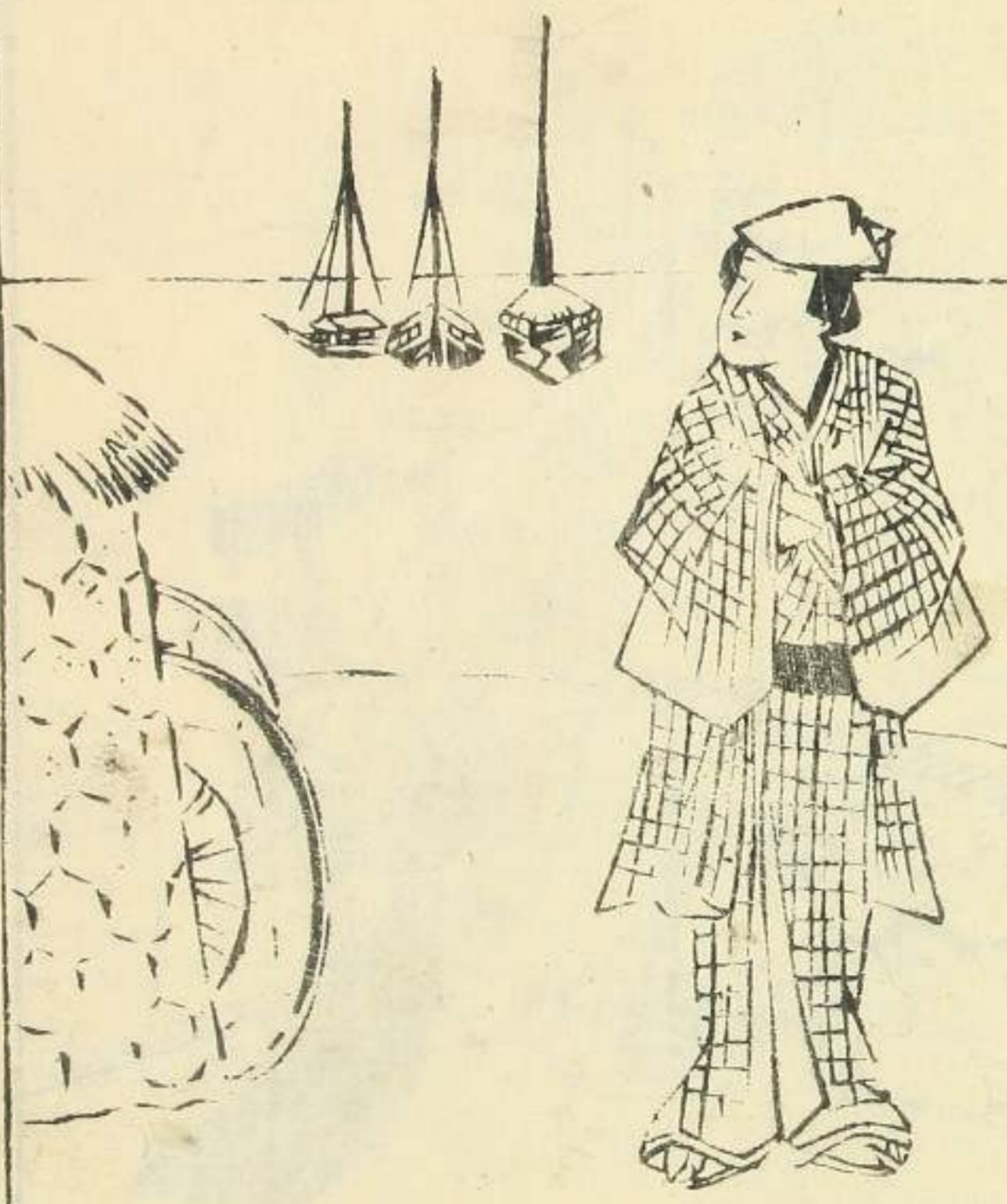
江南江北

送君歸

唯
有
相
思

似
春
色

江南江北



トニ
夕家客方

田久けの糸

却恨含青

掩秋扇

空懸明月

待君王

トニ
捲るふり

待と暮せ

トニ
好せ光ふ

情麻を六

平陽歌舞

新承龍

簾外春寒

賜錦袍

トニ
縹ひ冥情

あつらひ



トニ
長瀬もよもいも

よもいも

トニ
送君還舊府

トニ
明月満前川

トニ
むろ鏡み

むろ鏡み



トニ
うたれまがらも

七のまふまがら

トニ
白髪三千丈

トニ
縁愁似個長

トニ
物名目

時か

あつたま



ト二
「トあつたのいふ

赤香のいふ

莫謾愁沽酒

囊中自有錢

ト二
「トあつたのいふ

物めます



ト一
「トあつたのいふ

又あまきざり

雲想衣裳

花想容

春風拂檻

露華濃

ト二
「トあつたのいふ

何の噂で



ト一
一 結ふらるる

あの時

ト一
一 枝濃艶

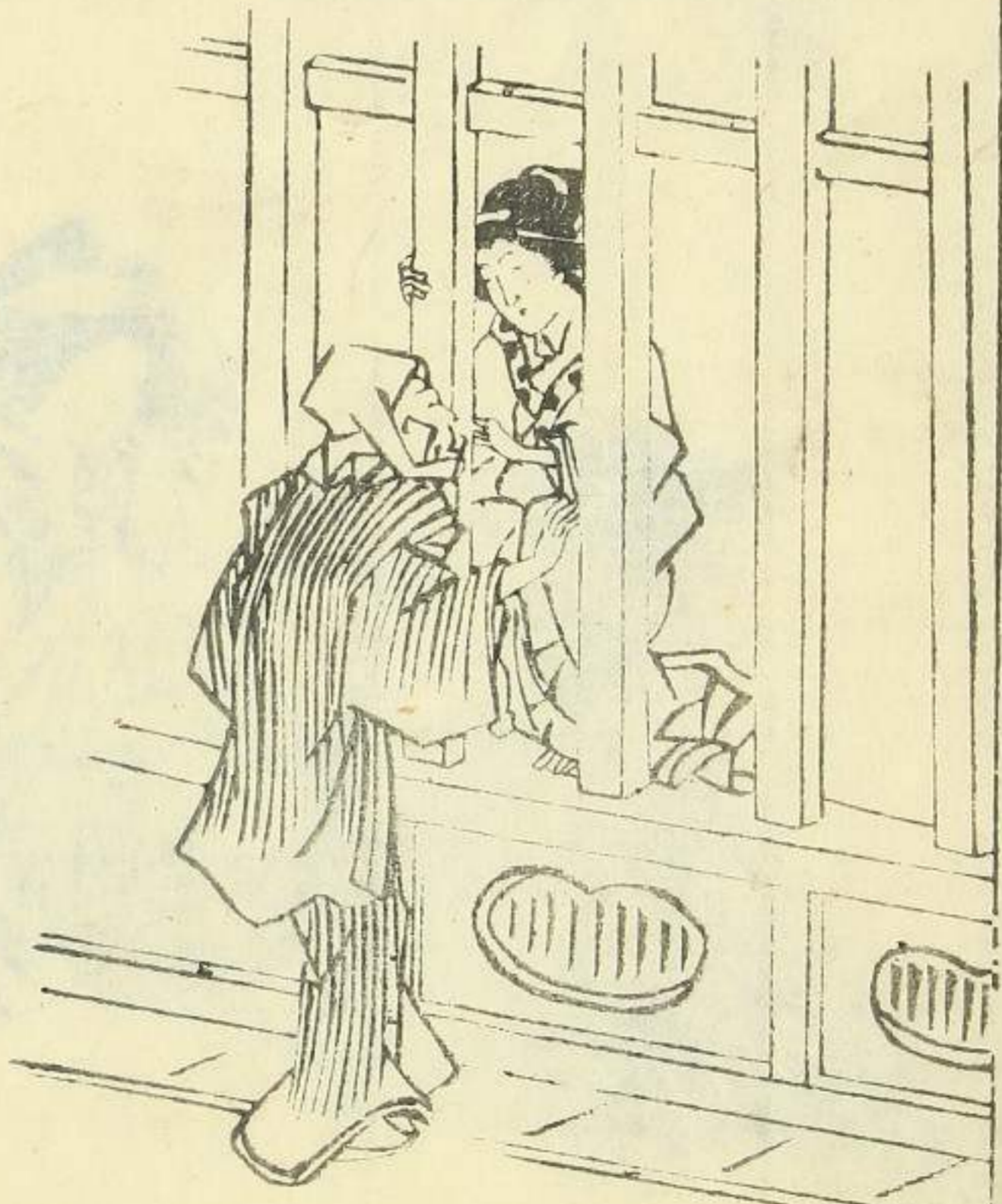
露凝香

ト一
一 雲雨巫山

枉断腸

ト一
一 吟えられし

夜半の首尾



ト一
一 不ぞも羨望の

とわれし

ト一
一 名花傾國

兩相歡

ト一
一 常得君王

帶笑者

ト一
一 人のやまら

無利あり



唐詩

ト
かきつと世帯

新柳

舊花荒臺

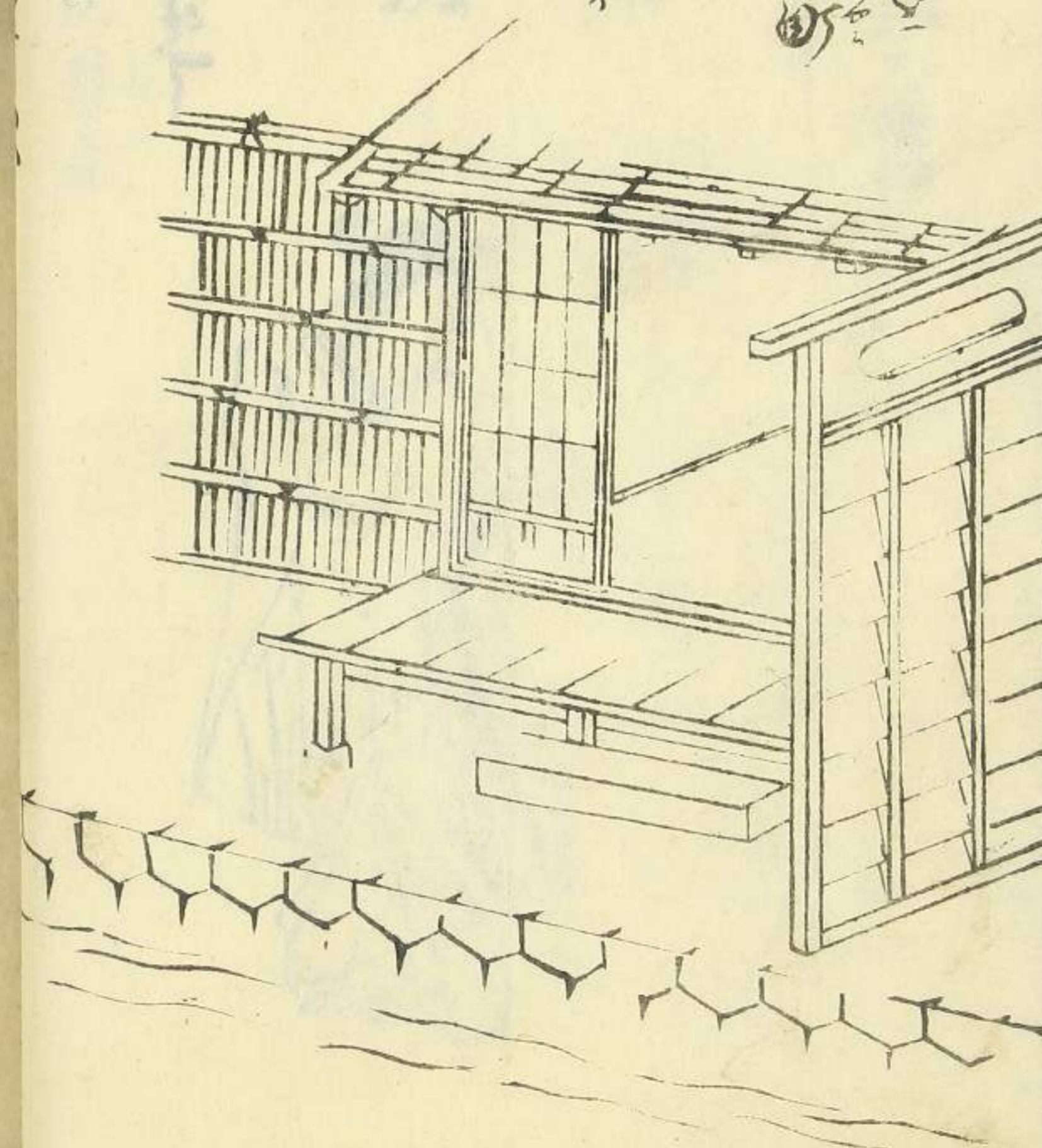
揚柳新

菱花清唱

不勝春

家生

美老



ト
一 秋炮の者の

屯宅多一具

鳴鞭過酒肆

袂服遊倡門

ト
一 秋隊

小とめ

夫と酒



唐詩

トニ
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて



トニ
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

トニ
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて



トニ
一、ふのぬ来し
中糸と

トニ
一、雙又玉手

千人枕

半點朱唇

掌萬客

トニ
一、夢のやあそ

業トれ

トニ
一、枕が

おやぶるをむ

年々歳々

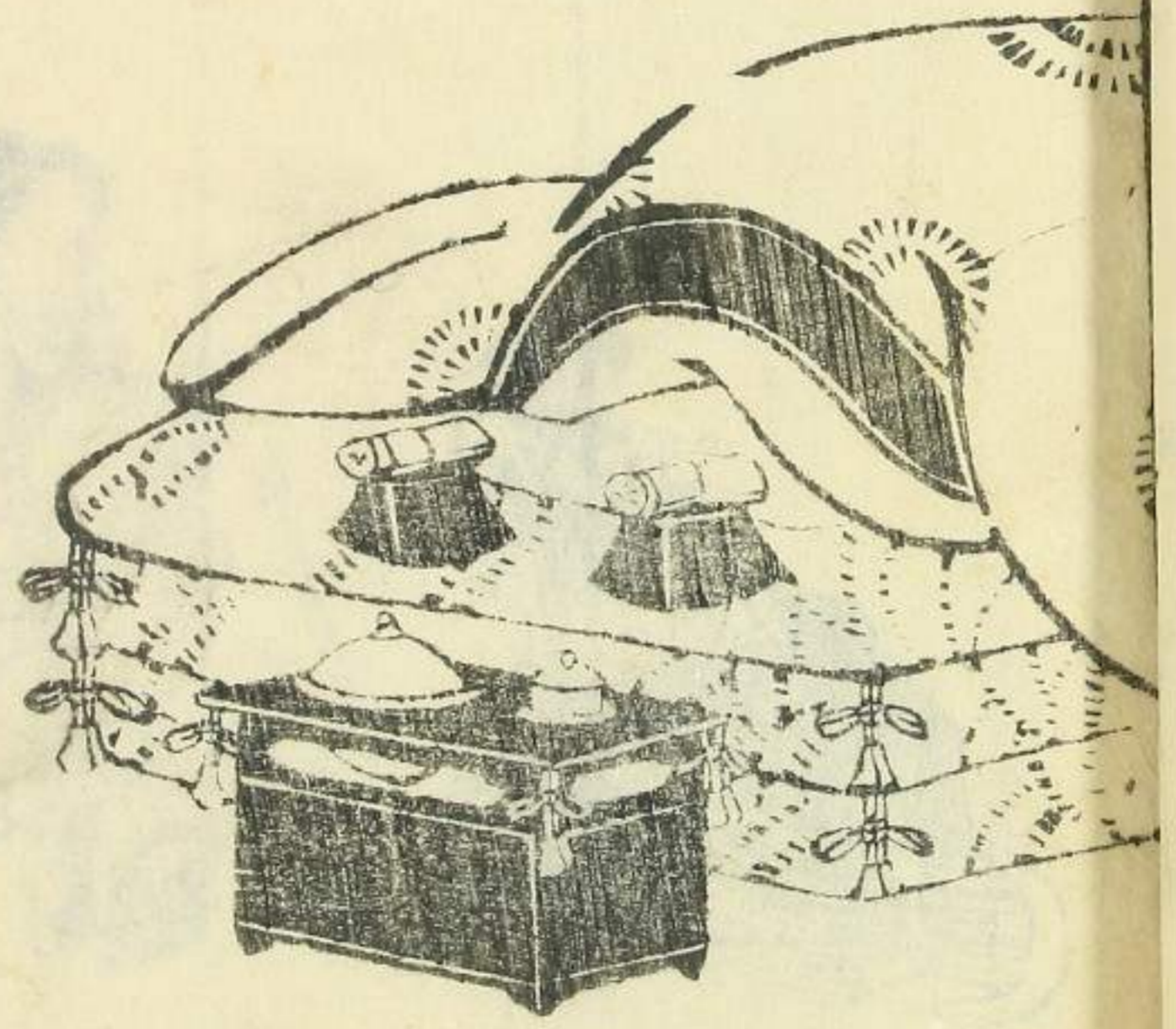
花相似

歳々

人不同

トニ
一、田々おはる

路や田



一 定ハ多

たてのあか

そぞろ親

閨中小婦

不知愁

春日凝粧

上 翠樓

今更勝べ

とらあか



一 三ハられイ

月や二世の縁

欲別牽郎衣

郎今到何處

一 くらしあ入さ

あくまて



ト一
こゝろでんるさへ

ふもふもたふ

冷艶全欺雪

餘香乍入衣

ト二
まへの〜まで
そくとげ



ト一
しらゆき

それこそ

心傷江上客

不是故郷人

ト二
振白

ふもふ
ふもふ



一、ト 松がやまを
見よ

見よ

映門 注水 緑

留騎 主人 心

ト
コトアガ

初登 表の

コトアガ



都トく類ル品シく集シ咲ク類シ品シ々

中チウ本ベン往ウ来ライ物モノ品シ増マシ字ジ消シウ息シツ往ウ来ライ

源ゲン氏シ百ヒャク人ニン一イツ首シュ口ク上ジョウ茶チャ番バン指シ南ナン

東京横山町三丁目 辻岡屋文助梓

一、ト 松がやま

010190508914

